

強制種付け祭り開催!



はらませ
ローりんぐ!

「へっへっ、いい眺めだなあおい」

「おー？おーおにーちゃん達、何でひなのコト縛るの？お、おっぱい見ないで、ひな、恥ずかしいよ！」

「おにーちゃん達さあ、ひなちゃんのフルマ姿見たらムラムラしちゃってさあもっちゃんポもギンギンなわけよ、って」ここで後はわかるでじょっ」

「お、おー？な、何？ひな、わかんないよ」

ギキョ

ギキョ





「じゃあ直接教えてあげるね、つこおー」

「oooooooooo」

「うほっ、さすがにキツすぎ」

「あっ……がっ……!」

ビクッ!

イキイキ

ニキッ

キキッ

イキッ!



「処女ロリマン」やべえ!
すぐイっちゃいそうだよひなちゃんっ!

「…ひっ…あっ…」

「ありや、泡なんか吹いて失神してら
しょうがないなあ、気付けにザンメンブチ込んであげるかw」

ピンッ

パッパッ!

ピンッ

パッパッ!

グキョッ

グキョッ



「おおおっし出るっ—」

「…ふえ…」

「ほらほらひなちゃんっ
おはようのザーメンだよっ」

「な…何…？ひなのお腹の中に…
あつたかいのが入ってくる…」

ドクドク!

ゴッ!

ドク!

「ふう、ひなちゃんどうだった？
初めての中出しセックスの感想は」

「…あ…あ…ひなのお股…
破けちゃった…の…す…す…の…いた…」

「ありや、まあたオチちやいそうだな
せっかく起こしたってのに
オイ、お前も気付けの二発かましてやれよw」

「オッケー、待ってましたっ」



「はあっはあっ、ひなちゃんマンコい具合にほぐれてきて最高だよ」

「……あ……あ……」

「あ、またトンじゃってる」

「そりやそつだろ、何時間やってんだっての」

「っせーなあ。ひなちゃん、俺のザーメンでまたすぐに起こしてあげるからねっ」

「あ……お……おこ……ちや……た……たす……け……」



ピッピッ

ピッ

ゴッ

ズッ

ズッ



「オラいい加減に大人しくしろっての」

「放せっ！なんだお前等！あっ、コラ！やめる服脱がすなあ！」

「だっ、ギヤーギヤーうるっせえなあ」

「うっさいポケ！放せアホ！」

「…あっ」



「黙れっつてんだろーがオラァー！」

「ooooooooooooo!!」

「オラどっだっ、前戯無し、処女マン」開通の気分はっー！」

「あっ……きゅ……ひゅゅんっ！」

ピカッ!

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ
ズッ

「オラオラッどっだ初チンポのお味はよおー」

「あつ、がつ、うあつー！う、うっさい、アホっ……」

「ちっ、ロの減らねえ…オイ！コイツ黙らせてくれよ」

「オッケー、任じとき」

「あつ、うあつ、な、なんだオマエ…っ」





「もうだめだっ出るっ！」

「んほおおおおおおつっっ！」

「おああつ、ロリフェラ口内射精たまんねえっ
ほらほら真帆ちゃんっ！まだまだ出るよっ
俺のくっせえサーメンもっゴククンじでっ！」

「んぐっ！んぐっ！んぐっ！ゴクッ！ゴクゴクッ！
お、おえっ…おええええええっ！」

ゴクッ

ビュッ

ビュッ



「オラっ今度はこっちだ！初レイプで孕めやオラアッ！」

「うあああああつっっっ！」

「な、なんだっ…これっ…お腹に…熱いの…入ってくる…っ…
や、やめろっ出すなっ！あたしの中に変なの出すなあっ！」

「へっもう遅えよ、まだまだ出るぞオラッ！」

「あ…またドクドクって…入って…
あああああああつっっ！」

ゴッ!

ゴッ!
ゴッ!
ゴッ!

ゴッ!
ゴッ!
ゴッ!



「オラまだ7発目だぞ、勝手にオチようとしてんじゃねえっ」

「あ……こめ……な……ひゃい……」

「またすぐゲームン流し込んでやっからよ、嬉しいかオイ？」

「は……はひ……うれ……ひ……でひゅ……」

「へっ、これからたっぷり仕込んでやっからな、楽しみにしてな」

「は……はひ……」

パッパッ

ゴッゴッ

ドッ

「おほっ絶景かな絶景かなw」

「あ…あの…何でワタシの服脱がしますか？
は…恥ずかしいです…」

「いやー俺洋モノ大好物でさあ
ミミちゃん見たらたまになくなっちゃってw」

「よ…洋…？よくわからないです…
ど…とにかくコレを外して下さい…」

「ああ、用が済んだら外してあげるよ」

「…え…？」





「そんじゃ初モノ洋ロリマンコいただきまーす」

「あ……」

「ほらほらっ、ミニちゃんのマンコに俺のチンポがどんどん入ってぐの分かるかな？」

「く……あ……あ……」

ビュッ!

ズ
ズ

ズ
ズ



「ふう、いや、よかったよミニちゃん
人生で一番大量に出たかもw」

「あ..あ..ああ..っ..」
「ありや、半分気失ってんのかな？
「こっちはまだまだイけるんだけど..
おっ、どうせなら「ツチ」の初めても頂きますかねw」

ピロッ

ピロ

ピロ

ピロ

「オイそっち、ちゃんと押さえとけよ」

「わー（whines）」

「あ…あの…」

「ん？」

「わ…わたし…こっつう事は…その…
ちゃんと決めた人として…えと…」

「へえ、これから何すんのかわかるんだ？
何何決めた人って？好きな男でもいんの？」

「え？…えと…あの…は…はい…」

「です…から…その…離していただけると…」

「ふん、成程ねえ…」



「おほっ、さすが処女ロリナススポーツ嬢だけあってマンコの締め付け半端ねえw」

「あっ!! やっ!! やだあっ!! やっ!! やめ!! やめて!! やめ!! ひいっ!!」

「これじゃあ、抜く暇も無くせゝんぶ中に落ちまうかもなあw」

「え... な、中って... やっ!! いやあっ!!」

「お願い、ですからっ、それだけはっ!!」

「それだけはあの人につ!! あの人だけに私はっ!!」

ズキッ

ズキッ!

ズキッ

ズキッ!





「なにがあの人だ色気付きやがってっ
キツチリ孕めやオラアツ！」

「やっ、やだやだっ！いやっ、いやあつ！
いやあああああああつっっっ！」

ビュブ!

イェッ!

ゴク!

ゴク!

ゴク!

ゴク!

ゴク!

「へっ、見えるかオイ？テメエのマン」から
俺のザーメンが溢れだしてんのがよお？」

「鬼かオマエはw」

「…あ…あ…そ…そんな…わ…私…

汚れちゃった…」「これじゃもう…あの人と…」

「あれ？これって寝取られつてやつw」

「知るかよwツーか」とつと交替しろや

さつきからキンキンなんだよ」

「あ…よ」

「…いや…お…お願い…ですから…

も…もう…やめ…」



「ゴロ」



「んじや俺は「うちの初めてを...」とお尻...」
「ひ...ひ...ぎ...」

「これやっべ、チンポ引っ「抜けそうだから」
「そっ、そ「違っ、あっ...」がっ...あきっ...」
「やっ、やめっ...お尻、お尻っ、裂けちゃうっ...」

ズチュ!
ズチュ!

ニキッ

ズキッ
ズキッ!

ズキッ!



「も、もうまたねえっで、出るっ…」
「あ…ああ…で、出てる…こ…今度はお尻の中に…
い…いっぱい男の人が…入ってきて…あ…あああ…」

「どっちが鬼畜だよオイ」

「いやあ面目ないW」

「あ……ああ……あ……」

「ありあり、完全に失神しちゃってまあ大事な商品なんだからあんま無茶すんなよ」

「え、何売っちゃうの？」

「ああ、なんでもこの辺の上質なロリ」と捕まえて金持ち共の相手させるらしいぜ」

「ふん……」

「あ……あ……わ……た……し……は……わ……さん……た……た……す……け……」



「ほらひなちゃん、みなさんにひなちゃんのオマンコを見せて差し上げて？」

「おー、おにーちゃん達、ひなのオマンコ見てえ♡」

「おおおっ！」

「まだひなのオマンコ空いてるよ？」

「ひな、早くおにーちゃん達のオチンポでスポスポして欲しいなあ♡」

「？」



ドキ

ドキ

ギ

ブイブイ

マ

「おおつひなちゃんっ—」

「わっ♡ふわあああああつ♡
きたあつ♡おにーちゃんのつっといオチンポ
入ってきたああつ♡」

「ちよっ、お客様困りますっ—」

「やかましいっ!金なら後で
いくらでも払ってやるっ!」

「はにやああ♡す♡す♡い♡
おにーちゃんのオチンポす♡いよおお♡
お尻とおまんこっ、スポスポされて
ひな、もうだめええええ♡」

「いいよひなちゃんっで—
お、俺ももうっ—」

トッポッポッ

ズキ!

ズキ!

ズキ!

ゴク



「はあっ、はあっ
「ごんごんに出したのか俺：」

「あふあひひひなのオマンコからごんごんに
いっぱい出してきて、ひな幸せだよお」

「ひひなちゃん：」
お、俺まだまだ出来るよっ」

「おー♡ホント？ひな、嬉し」



「あ・アレが、ひ・ひな・たちやん…？」
「おやご存知でしたか
ええ、当店自慢のロリビッチですよ」
（そ、そんな馬鹿な！
これじゃ他のみんなは一体！）



「ほらほら♡あたしがしてあげるからおにーさんはじっとしててっ♡」

「あ、ああ」

（な、なんかピッチぽいなあ
ピッチ系はあんま好きじゃないんだけど…
見た目で選んだのは失敗だったかな…）

「あはっ♡おにーさんのチンポすっげー固い♡」

「うっ、さ、さすがにキツっ…」

ズ

アキユ

アキユ



「あっ♡あっ♡んあっ♡
ど、どっっあ、あたしの♡
真帆のおまんこ♡、気持ちいい♡」

「あ、ああ、これはちよっと
長持ちしそうにないや・うっ」

「いいから♡」

「えっ？」

「いつでもっ、何回でもっ、
出していいからっ♡」

「真帆っ、頑張るからっ♡
いっぱい気持ち良くなっ♡」

「っっ、な、なんか
急に可愛らしくっ」

グキョッ!
グキョッ!

グキョッ!

グキョ♡
グキョ♡

ほ♡
ほ♡



(や、やばっ、出るっ！)

「ふあっ♡？き、きたっ♡
いきなりせーしきたああっ♡
しゅ、しゅっ♡、こ、こんなにいっぱいっ♡
真帆のオマンコしゃ入りきらないよおっ♡
ら、ちめっ♡溢れちゃらめえっ♡
真帆のっ♡このせーし全部っ♡
真帆のなのおおっ♡！！」

キョーッ！
キョーッ！
キョーッ！

キョーッ！
キョーッ！
キョーッ！

「うっ、さ、さすがにもうキツイって真帆ちゃん
もう8回目だよっもうそろそろっ」

「…飽きたんだ…」

「え？」

「真帆のコト…もう飽きたんだ…ぐすっ」

「い、いやいやそんなコトないって！」

「真帆のコト、好き？」

「も、もちろんだよっ」

「じゃあ…真帆の為にオチンチン…
またおっきしてくれる…？」

「この上目遣いに
この言葉遣い…断れないっ…」

「あ、あれが真帆だつて？
し、信じられない…完全に
別人じゃないか…」

「おや、真帆ちゃんを」指名で？
いやああの子も見た目はもちろん
妙な人気がありますねえ」

「い、いえ…もう少し見て周りのたいのっ…」





ズキョ!

ズキョ

ズキョ

ズキョ!

あ♡

ほ♡

「わ、ワタシ、そんなコト、
してな、あ、あ♡♡」

「俺のチンポにキエウキエウ
吸い突いてくるから
腰止まんないってっ」

「あっ、はっ、んあっ!!
あっ、あのっ、も、もっ、と、優しくっ、
お腹、くるしっ!!」

「はあっ、はあっ、いいよあっ
ミミちゃんのポテ腹ロリマンコ
最高だよっ」

ズキョ!



「あ……あ……う……あ……」

「そんなに癒癒する程
気持ち良かったんだ、嬉しいなあ」

「……き……気持ち……よく……なんか……
な……な……って……な……」

「またまたあw
ツンデレだなあ……ミちちゃんは
今日は三日中……上げてあげるからね」

「……そ……んな……きよ……今日は……
もう……も……た……な……」

「あ……あ……あ……」

「はあつはあつ、気を失ってる
ミちちゃんも可愛いよっ」

「あ……あ……あ……」

「失神ロリマン」最高！

（あ、あれは？）

「ちよ、ちよと！彼女もう意識が！」

「え？ああ、あれはもういつも
あんな感じですよ。うちの幹部の
お気に入りです。ねえ、捕まえた時から
誰にも触らせませんよ」

「な、何を言ってる……」

「我々から見てもさすがに
悲惨ですがねwそういう訳で
売り物じゃないんですよ」

く 狂ってる……っ……

「でな訳で後はもう
ポンコツくらいしか……」

「ホントに……っ……」

チュ

ズキ！ズキ

ズキッ

ズキッ





「オラッ! ちったあ反応しろや
このボンゴツ!」

「チィッ! ダメだ! リヤ:
ったくダツチワイフと変わんねえぞ! コリヤ」

パン!

チュッ

アキ

パン!



「オラっ燃料ブチ込んでやっからちつたあ動けやポケっ!」

「チッ反応しねえくせにマン」だけは吸い突いてきやがるっぐうっっ!!」

ゴクン!

ピョッ

ゴクン!



「あーまったくマジでタッチワイフだわーりや」
「いやいや、これブツ壊したのアンタっしょw」

「うっせーよ、ちっと孕んだくれーで
頭イッチまいやがって」

「まあまあ、これの世話係
アンタなんだからさ
きちんと面倒みないと」

「なーが世話係だつての
こんなマジモンの肉便器
性欲処理以外に使い道
ないつての」

「ひゅん」

「まったく、うっせーや、うっせーや、
マンもブツ壊れるまでハメ倒してやこよ」

ビキッ
ビキッ



「あ……あ……」

「おっコイツ今反応したか？」

「……が……わ……さ……」

「あ、ホントだ」

「……ん……ん……」

「……お……お……」

パッ!
チュッ
ボムッ
ボムッ

「ああ、アレですよあれ」

（智花！やっと見つけた！
これで……！）

「でもダメですよアレは
ホント使い物にならなくて」

「アンタに言われたかないけどね」

「はっ」

（もっとうまく取り囲まれてるっっーの
こんなコトしたら警部が動き出すって
相場が決まってるんだよ！
さあ帰ろうみんな！紗季や愛莉が待ってる……！）